



故 矢野三郎先生

故 矢野三郎先生の略歴

1928年 5月20日 大阪生
 1953年 3月 大阪大学医学部卒業
 1954年 4月 大阪大学医学部第三内科教室入局
 1957年10月 大阪大学医学部助手
 1959年 4月 医学博士（大阪大学）
 1963年 6月 Cleveland Clinic 留学（2年間）
 1971年 5月 大阪大学医学部講師
 1974年 5月 大阪大学医学部助教授
 1976年 4月 富山医科薬科大学（現富山大学）医学部教授
 1979年 4月 富山医科薬科大学附属病院第一内科科長に併任
 1983年 2月 科学技術会議専門委員に任命
 1987年 8月 富山医科薬科大学保健管理センター所長に併任
 1990年 8月 第7回和漢医薬学会大会長
 1991年 4月 国立療養所刀根山病院長に転任
 富山医科薬科大学名誉教授
 1991年 8月 和漢医薬学会賞受賞
 1992年10月 大阪市立大学客員教授
 1998年 8月 和漢医薬学会名誉会員
 2006年 1月25日 逝去（享年77歳）

和漢医薬学会における主な経歴

| | | | |
|-------------------|-----|----------|--------------|
| 1984年 4月～1988年 3月 | 理事 | 1990年 8月 | 第7回和漢医薬学会大会長 |
| 1990年 4月～1994年 3月 | 監事 | 1991年 8月 | 和漢医薬学会賞を受賞 |
| 1994年 8月～1998年 3月 | 理事長 | 1998年 8月 | 和漢医薬学会名誉会員 |

矢野三郎先生のご逝去を悼む

和漢医薬学会理事長 寺澤 捷年

平成18年1月25日に本学会名誉会員・矢野三郎先生にはご逝去された。心から哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます次第である。

矢野先生は1953年に大阪大学医学部をご卒業になり、54年に同大・第三内科に入局された。すなわち、本学会の前身である「和漢薬シンポジウム」の生みの親とも言える山村雄一先生の門下に加わったのである。矢野先生のご業績については加藤弘巳先生が別に詳細に記して下さっているので省略するが、甘草からグリチルリチンを分離し、その薬効を明らかにし、製剤化に成功したことは和漢薬研究に関連した特筆すべき業績である。

和漢医薬学会に関連したご功績を列記すると、「和漢薬シンポジウム」の発足に山村先生、熊谷朗先生、大浦彦吉先生、木村康一先生、木村正康先生と共に参画された。84年にこのシンポジウムが和漢医薬学会へと発展改組したのに伴い、理事に就任され、90年からは監事、そして94年には理事長に就任し、本学会の基盤作りにご尽力下さった。この間、90年には第7回和漢医薬学会大会長の重任を果たされ、翌91年には和漢医薬学会賞を受賞されている。本学会は先生の永年に亘るご貢献に対して98年に名誉会員の称号を贈らせて頂いた。

矢野先生と私とのご縁は熊谷朗先生を介してのものであった。矢野先生は76年に富山医科薬科大学医学部第一内科学講座の教授にご就任になり、富山医科薬科大学の創設にご尽力された。この大学附属病院に和漢診療部が設置されることになり、私は79年に此処に赴任することになった。この人事を取り持って下さったのが熊谷先生（当時・千葉大学第二内科教授）である。熊谷先生は山村門下では矢野先生の兄弟子に当たる。このような訳で、矢野先生は私の富山での後見役として公私に亘って面倒を見て下さったのである。先生は1928年のお生まれであるから、私のちょうど一回り上の干支である。洩垂れ小僧で小生意気な私を兄のように温かく包んで下さった。先生のお人柄は誠に高潔で、背筋をいつもピンと伸ばされたお姿には凜然という言葉が最も相応しく感じられた。

私は現在、和漢診療学という学問開拓に携わっているが、こうして考えてみると、矢野先生から賜ったご恩の大きさに改めて気付くのである。このご恩に報いる為にも、さらなる精進をお誓い申し上げ、追悼の言葉としたい。

（平成18年2月）